

■広義門院(西園寺寧子)

後伏見上皇の女御。幕府がひれ伏し、女性初かつ天皇家出自でない初の治天の君の存在に。

こうぎもんいん

.....1292=

西園寺公衡と下級公卿の娘の間に生まれる。(藤原兼子説は疑問)

平禪門の乱・1293= 1歳:

西園寺家は代々関東申次の要職にあり、当時の両統迭立に双方と婚姻関係を結ぶほどであった。

後二条天皇・1301= 9歳:

.....1302=10歳: 持明院統御所で着袴の儀を行って、伏見上皇の猶子となり、

.....1304=12歳: この年、持明院統の大黒柱後深草法皇が死去、

.....1305=13歳: この年、大覚寺統の祖龜山法皇も死去したため、両統の対立が激化、そのあおりで、父公衡が後宇多上皇から勅勘を蒙って、簞居の上、家領没収という憂き目に会ったが、まもなく解かれ、

.....1306=14歳: 後伏見上皇の女御となる。

將軍追放入替1308=16歳: 大覚寺統の後二条天皇が夭折し、後伏見上皇が実弟の富仁親王を花園天皇として即位させたことから、

.....1309=17歳: \*花園天皇の准母とされ、後伏見上皇の本後の地位を得、従三位に叙されて准三后となり、院号を受ける。

.....1310=18歳:

.....1313=21歳: 後伏見上皇の皇子量仁親王を出産。

後醍醐天皇・1318=26歳: この年、後醍醐天皇が即位。

.....1319=27歳:

後醍醐親政始1321=29歳: 後伏見上皇の皇子豊仁親王を出産。

正中の変・1324=32歳: 後醍醐天皇による討幕計画が露見したが、この時は天皇不問(正中の変)。

北条分家執権1326=34歳: 後二条天皇の子邦良親王が急死したため、待望の量仁親王の立太子が実現。

.....1328=36歳:

元弘の変・1331=39歳: \*後醍醐天皇の討幕計画が発覚して退位させられ(元弘の変)、量仁親王が光厳天皇として即位して後伏見上皇が治天の君となったことから、国母となったが、

鎌倉幕府滅亡1333=41歳: 後醍醐天皇の巻き返りで、鎌倉幕府が滅亡、光厳天皇は廃立される。

中先代の乱・1335=43歳: 中先代の乱からんで、甥の西園寺公宗が持明院統再興を図るも失敗して処刑され、衝撃を受ける。

南北朝分裂・1336=44歳: 後伏見上皇が死去したため、出家するとまもなく、後醍醐天皇勢力を打破って室町幕府を興した足利尊氏\*が光厳上皇を治天の君とし、豊仁親王が光明天皇として即位するに至って、その栄光が復活する。

.....1337=45歳:

後醍醐天皇没1339=47歳: 後伏見上皇を弔うため、大光明寺を創建。

.....1346=54歳:

.....1351=59歳: 足利尊氏が対立する弟足利直義に対抗するため、南朝と講和したことから、光厳院政とその子崇光天皇が廃された上、南朝軍の策略によって、光厳・光明両上皇に崇光天皇とその子直仁親王全員が拉致されてしまう。その結果、大空位時代となって公武全てが機能不全に陥ったため、唯一残っていた光厳上皇の皇子弥仁王を天皇とすることになり、超法規的措置として詔宣すべき上皇の役割を求められ、

観応の擾乱終1352=60歳: 幕府不信から当初は拒否したものの、意を決して受入れ、遂に治天の君となって令旨の発行等を行い、弥仁王は後光厳天皇となり、北朝を再建して南朝の思惑をくじき、足利政権の安定を実現。

.....1355=63歳:

.....1357=65歳: \*後光厳天皇に政務権を継承した後も、北朝家督者として君臨し続けて、

.....1357=65歳: 没した。